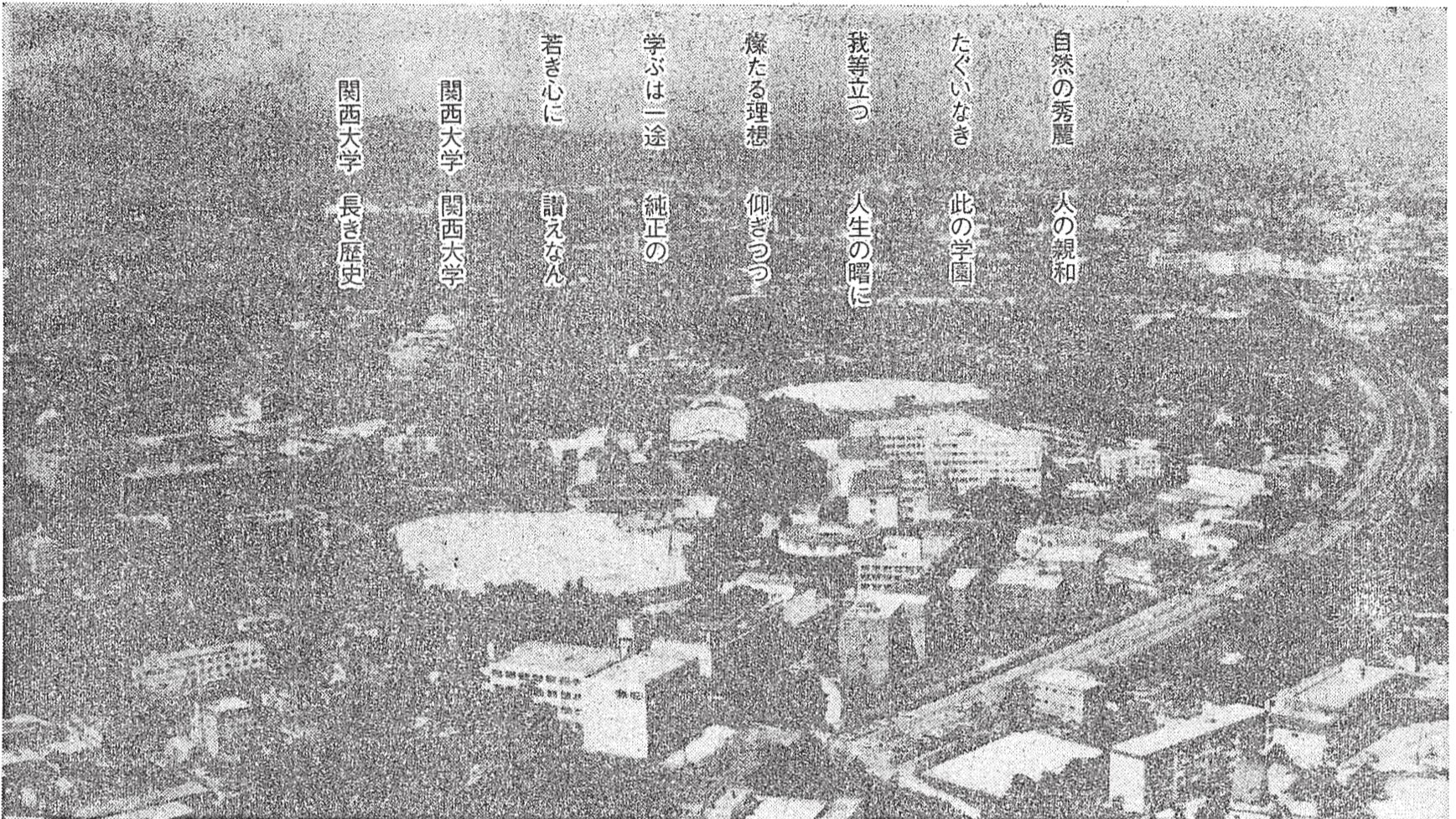


第52号
広報委員会発行

関西大学通信

大阪府吹田市山手町3丁目
関西大学広報委員会



自然の秀麗 人の親和

たぐいなき 此の学園

我等立つ 人生の曙に

燦たる理想 仰ぎつつ

学は二途 純正の

若き心に 讀えん

関西大学 関西大学

関西大学 長き歴史

わが関西大学は明治十九年、未だ学制も未熟の頃、社会の要請に
応え、夜間の関西法律学校とし
て、大阪、京町堀の順天寺で誕生
し、本年で九十歳を迎えます。創
立当時学生数は僅か数十名であ
り、今や二万四千名に達し、六
学部二十四学科専攻を擁する一
大総合学園に発展したのでありま
す。その外観、内容ともに比較に
ならない変遷を遂げました。この
発展は幾多先人の並々ならぬ努力
と研鑽の賜にほかならないのであ
ります。ともかくも十四万の校友
二万四千の在校生、一千の教職員
の方々とともに、衷心より慶賀に
堪えないところであります。

金の大増額増進を理事会に要請し
なければなりません。また国庫取
成の促進にも努力しなければなら
ないとともに、将来の展望として
は教育効果を高めるため学生の
漸減を望みたいと考えます。国立
大学は学生数が少なく学費が低く
把握されていることは、私大との
あるものを打出すべきと考えま
す。この点については目下

昭和四十四年の大学紛争以来学友
会が崩壊したままになってい
るとは遺憾にたえません。それま
で毎年行なわれていた文化祭や大学
祭が他校にないのも学友会とい
う学生の自治的統一組織がないか
らであります。学生諸君の自主的
努力によって再建されるよう奮起
する運びとなりました。担当の教
授はかならず負担を承ねてお
り、体育活動に注がれた意気
とが同時に知育に資することを
期待するのであります。

創立90周年を迎えて

学長 明石三郎

さて、この昭和五十年の年頭に
当たり、今後におけるわが関西大
学の進むべき道を考へてみたい
と思ひます。

先この歴の大増額増進を理事会に要請し
なければなりません。また国庫取
成の促進にも努力しなければなら
ないとともに、将来の展望として
は教育効果を高めるため学生の
漸減を望みたいと考えます。国立
大学は学生数が少なく学費が低く
把握されていることは、私大との
あるものを打出すべきと考えま
す。この点については目下

関西大学には建学の精神として
反骨と質実剛健の風潮がありま
す。学生諸君がマイカーによって
レジャーを楽しむ傾向が見られる
のはその気風の軟弱化を示すもの
でなければ幸だと思ひます。と
もかくも創立九十周年を迎えるに
当たり、学生も教職員も一体とな
り、将来への飛躍を望みたいもの
であります。

年頭所感

日本最初の私学慶應義塾の創立
者、福沢諭吉先生は「独立自尊」
を唱へ、義塾がこれぞしなう時
は、義塾を離脱する時であると断
言されました。日本の私学の、ま
た私学経営者の誇りは、まさに
「独立自尊」にあります。

を頼りにあがりました。という
が破りました。その返済には学生
の納める学費もあてねばなりませ
ん。ところが、千里山の大学生と
返すです。富島氏は身が重なる
程の怒りを感じましたが、ま
して「私は自分のために借付を頼
みに来たではありません。大学の
ため金をもたらしたのです。金
千円余の古い、設備の悪い福島学
舎を通り、私は毎週です」と言
てひきかきました。この報告を

が、学生数からすれば約七万
大入ライキが起りました。そ
れはならないのが、基準の求める
ところ。しかし、国立大学の
ように国有地を何十万坪も、文
部省と大蔵省との話しあい、右
から左へというふうなわけにはま
りません。その他、お
おまこれと同様の苦しい状況で
あり、さらに異常な物価高騰にお
い打ちされて、進退きわまってい
るのが実情です。

私学経営者の誇りと悲哀

理事長 久井忠雄

日本最大の国立大学、東大と京
大で全額立学経費(約四千五百
億円)の約二〇%前後の学費を消
費しているといわれています。そ
のうち東大と京大の納める学
費は、約十億円にすぎませ
ん。この巨大な経費のほとんどは
国民の納めた税金で、これが右か
ら左へと渡されるのです。親方日
の丸であります。日本の私学、
一大学では、どんなにシャッ
コ立しても、こんな金は出ませ
ない。その自分のでもなま
たいていこのことではありません。

きいて、山岡理事長は富島専理
事を激して「よくがんばりました。
山岡舎の建設にあてねばならぬ
ところに、関大経営のつらさ、苦
しさを伝えています。その経営の責
任は、各自だけの責任山岡氏で
はなく、専理理事富島氏の双肩に
かかっています。

事情は今日も変わっていきま
せん。かつて富島先生が、学生たち
に「石も追われる如く」去った
ように、私も、学生諸君に「石も
打たれる」でしよう。試みに文
部省の大学設置基準のつらさを
、一例としてあげます。文部
省は本学の場合の基準から学生
一人につき、約七坪の校地を要求
しています。これに対し大学は約
八万九千坪(高一・中・幼稚園
を含めて十万余坪)という私大と
しては天大な校地を持っています。

私学経営者の誇りと悲哀といえ
ば、私は直ちに、元理事長の富島
治氏を訪問し、「関大のため寄付
金の大増額増進を理事会に要請し
なければなりません。また国庫取
成の促進にも努力しなければなら
ないとともに、将来の展望として
は教育効果を高めるため学生の
漸減を望みたいと考えます。国立
大学は学生数が少なく学費が低く
把握されていることは、私大との
あるものを打出すべきと考えま
す。この点については目下

文部省の大学に対する設置基準
は、極めてきついものでした
が、その基準はどうしてもあきら
めなければなりません。一方専門部
生の不満は極限に達し、ついに爆

が、学生数からすれば約七万
大入ライキが起りました。そ
れはならないのが、基準の求める
ところ。しかし、国立大学の
ように国有地を何十万坪も、文
部省と大蔵省との話しあい、右
から左へというふうなわけにはま
りません。その他、お
おまこれと同様の苦しい状況で
あり、さらに異常な物価高騰にお
い打ちされて、進退きわまってい
るのが実情です。

